歓迎

ようこそ Welcome Benvenuto Willkommen 잘 오셨습니다 Bienvenue Welkom Bienvenida Boas-Vindas

日本を訪れる外国人が急増している。2015年は「爆買い」やホテル不足も話題になった。大阪でも関西国際空港の外国旅客数が14年度は約699万人と過去最高を更新し、15年度は1000万人を超えそうだ。この勢いを好機ととらえ地域の活性化につなげようという試みが府内各地で始まっている。

【山田毅、米山淳】

取り込め！訪日外国人 ❶

通訳体制拡充を 患者の意思を橋渡し

りんくうタウンを国際医療拠点とするには、患者の外国人と日本人医師らの意思疎通を仲介する通訳が必要だ。このエリアにある地方独立行政法人りんくう総合医療センター（泉佐野市）には、研修中も含め約70人の医療通訳がいる。今後、さらに多くの人数の確保が期待されている。

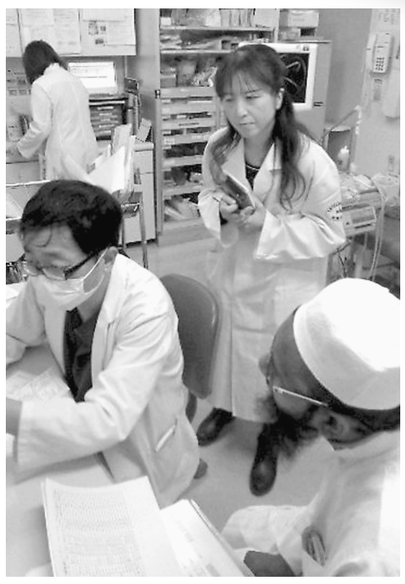
同センター泌尿器外来を先月上旬、バングラデシュ人で府立大に留学している研究員、ゴファ・ロイハンさん(35)が受診した。

診察室には医療通訳の小松真奈美さん(49)が同席した。ゴファさんは1年前から尿の出が悪く通院しており、小松さんから英語で「経過は順調」と医師の言葉を伝えられた。これまで機器を使って尿を出していたが、「順調なら機器の使用回数を減らしたい」と要望。回数を減らす代わりに検査の頻度を増やすことになった。

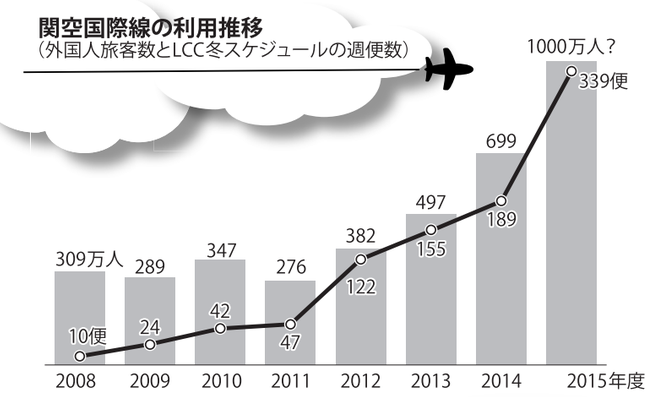
小松さんは元看護師。今は専門学校などで英語教師をしながら月1回、医療通訳としてセンターに勤務している。小松さんは「ゴファさんがラマダン（断食月）の時に『日中は薬が飲めない』と訴えたこともある。宗教や文化の違いを理解することも大事」と話す。

センターは2006年度、国際外来（現国際診療科）を創設。英語とポルトガル語が話せる8人で通訳を始めた。医療通訳に資格はなく、試験や現場経験など独自の認定基準を設けている。現在は英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語に対応している。06年度88件だった通訳件数は14年度は862件と増加。8割が在留外国人だが、外国人旅行者は「14年は月数人だったが、15年は多い月で20人が受診している」（国際診療科）という。

国際診療科の南谷かおり部長(50)は「医療通訳は医療用語の勉強も必要で責任も重いのに、公の資格ではなく報酬も不安定。資格制度や金銭的サポートが必要だ」と訴える。厚生労働省は14年度から全国で医療通訳の拠点病院を認定し、人件費などの支援を始めた。センターも認定されている。南谷部長は「不十分な点は多いが、支援が始まったことは歓迎したい」と話している。 ＝つづく



ゴファ・ロイハンさん(右)のそばに立って医師の話を聞く医療通訳の小松真奈美さん（中央）＝りんくう総合医療センターで



ＬＣＣ週339便で過去最高 今年度の冬

新関西国際空港会社によると、15年度冬スケジュール（15年10月～16年3月）の関空の国際線旅客便は週1069便を予定。そのうち格安航空会社（LCC）が週339便を占める。いずれも過去最高の便数で、LCCは16社が中国や韓国、台湾を中心に25都市に就航している。国際線旅客便に占めるLCCの割合は、就航を始めた08年度には1・6％だったが、今回初めて3割を超えた。17年春にはLCC国際線専用の第3ターミナルも完成する。

699万人 外国人旅客数も 昨年度国際線利用

14年度に関空の国際線を利用した外国人旅客数は過去最高の699万人（13年度497万人）で、初めて日本人旅客数（630万人）を上回った。新関西国際空港会社は、入国ビザの緩和や円安効果などの影響とみており、特に中国からの旅客数が年度後半から増加した。15年度も上期（15年4～9月）だけで532万人に上っている。下期も増加傾向は続いており、1994年の開港以来初の年間1000万人台に迫る勢いだ。

KIX

関西国際空港の入国審査場で長い列を作る外国人観光客ら

関空 安心おもてなし

外国人旅行客の増加によって関西国際空港では2015年、さまざまな面で混乱が生じ、対応に追われた。

入国審査場では夏休みなど繁忙期に外国人の長蛇の列ができ、1時間以上待つこともあった。このため、15年10月から入国審査官を約30人増員。それ以降は、1時間を超えることはまれとなった。16年3月末までには入国審査官をさらに約50人増やす予定だ。

出国時に荷物や身体を検査する保安検査場も混雑した。15年7月からは新関西国際空港会社の社員が、検査場に向かう旅行者に対して、「100ミリリットルを超える液体は持ち込めません」などと呼びかけ、誘導するようにした。検査ブースも4カ所増設。30分以上